

がん 4000年の歴史 上・下

シッタールタ・ムカジー著（ハヤカワNF文庫・各994円）

日本の統計では、二〇一五年の予測がん患者数は九八万人と、前年より一〇万人増えた。がんによる死亡は死者総数の二八％、死亡原因のダントツ一位である。結核やペストなど人類を悩ませた重大疾患が医学の門に降ったいま、「病気の帝王」がんがいよいよ突出してきたのだ。

医学の世界では、腫瘍を「新生物」と呼ぶ。ギリシャ語由来のneoplasmの訳だが、特に悪性腫瘍Ⅱがんの別名として格別の迫力だ。知らぬうちに体内で生まれ増殖する新生物。がんが私たちの生存機能をそのまま使って成長し、体内で進化までする、私たち自身の「クローン」だと分かったのは、つい最近だ。本書は、コロンビア大学医療センターのがん臨床医師による大作（二〇一〇年刊）。二〇一三年の邦訳の、改題文庫版である。

がんゲノムの解説が進む現在まで。不可思議な病気の解明と治療にまい進し挫折を繰り返した研究者と臨床医の戦いを、臨場感あふれる筆致で描いた。長く続く緊迫したストーリーでは、アメリカならではの激しい市民運動も重要な要素となる。登場する研究者・医師・患者は膨大で、想像を絶する資料調査にはただ脱帽だ。病気に対しては、まず原因を解明し、それに応じた治療法を開発するのが手順だろう。だががんの原因解明は、ひどく難航した。二〇世紀初めになっても、煤煙原因説、ウイルス原因説、体細胞変異説などが入り乱れる大混乱。理解が進めば進むほどわかってくる、がんの複雑さ。がんを起す遺伝子変異や体内での活性化は数多く何段階もあることが理解されたのはようやく一九八〇年代だが、これだけがんのさまざまな謎も

解けてきた。例えば、がんのスーパー細胞。遺伝子Ⅱゲノムの突然変異はめったに起きないから、がんは変異を重ねて発現するまで体内で一〇〇三〇年を過ごし、私たちの老化と競い合うのだ。

こうして、「がんの原因遺伝子はもともと私たち自身のゲノムで、体内で活性化されるのを待っている」というがんの肖像の輪郭が描かれたのである。ひとたび「正しい路線」が発見されれば、後戻りはない。それが、近代科学の方法の強みだ。

治療は、どうか。がんの正体は分からなくとも、瀕死の患者は医師の前にいた。僅かな希望を求め、手探りで進んだがん治療の一步一步が、物語である。乳がんでは、麻酔と消毒による手術が普及した一八世紀末以降、「根治手術」で莫大な患者の組織が徹底的に切り取られた。白血病では、実に様々な毒が抗がん剤として試され患者を苦しめた。そしてX線の登場、化学臨床試験の展開など。だが著者によれば、一部を除きがん死亡率は僅かしか低下しなかった。がん治療近代化のリーダーは、ア

メリカだった。一九五〇年代にタバコの発がん性が明らかになり、医師や市民は巨大タバコ産業との長い闘いを開始。一九七〇年代、化学療法を開拓したシドニー・ファーバーは著名なロビイストと組み、アポロ計画を継ぐ大プロジェクト「がんとの闘い」を打ち上げる。彼らは大統領を動かす、がん対策を国家戦略に高めた。莫大な資金の投入、大量の臨床試験。熱狂的だが効果は薄かった「がん戦争」を経て、一九八〇年代に新しい治療の流れが形成される。

ほっとすることに、副作用による患者の苦痛に無頓着だった反省から「緩和ケア」が医療に組み込まれた。一方的だった臨床治療も「患者とともに進める」治療へ変化した。二〇世紀末、がん原因遺伝子の理解を背景に、分子標的薬剤の開発が始まった。

本書には、多くのがん患者が登場する。一九五〇年代のアメリカのがんとの闘いに火をつけた小児がんのジミー、テーマミュージックのように折々語られる著者の患者カラー。闘いに生き延びた人たちの物語、生

努力は無駄ではなかった 未完の肖像画

き残れなかった数多くの患者たち。過去と現在にちりばめられる物語が「病気の帝王」との長い闘いに、救いと希望を添える。実は評者もいま、脾臓がんと闘う臨床試験中である。医師と患者がじかに向き合う交流には、大きな励ましを受けた。最先端医療の現場ではとりわけ、密な人間的関係が結ばれるのだろう。

がんの理解と治療はなお途上にあることも、本書で充分にわかる。現在という時点でがんと闘う患者や医師は、この時代に生まれたことを感謝すべきか、それとももっと後に生まれなかったことを恨むべきか。いやそうではない。すべての時代におけるがんとの闘いが、今日の理解と治療をもたらしただけであらゆる治療や試みが基礎となって少しずつがんが解明され、少しずつだが実際にがんの死亡率を引き下げてきたのだ。どんな努力も無駄にはならなかった。それが、がん四〇〇〇年の歴史を振り返っての著者の結論だ。

患者・医師であることを問わず、現代に生きる私たちに、恐るべき闘いの相手の全体像を示した力作。そして、才能豊かな語り手がディーティルを膨大に積み上げて描いた巨大な肖像画——ただし未完。（田中文訳）